

戦争や空襲の体験を受け継ぐために

現在、戦争を体験した世代は日本の全人口の1割を切っています。戦争や空襲のリアルな現実を知るためには、私たちが自分自身の手で調べ、学び、体験や知識を共有していくことが重要になってきます。

このセンターは、戦争体験の継承を願うすべてのみなさんにとっての、学びや交流の中心地（センター）でありたいと思います。

どうぞセンターをご活用ください。 館長 吉田 裕

センターの成り立ちと歩み

当センターは、民間の学術研究機関である公益財団法人政治経済研究所の附属博物館です。

「東京空襲を記録する会」は、1970年代より空襲・戦災に関わる資料や被災品などを広く収集し、東京都に戦災資料館建設を求めてきました。しかし、1999年、都の「平和祈念館」（仮称）建設計画は凍結されてしまいました。

集めてきた資料をまもり、あるいは語り継ぎ、学び合うための施設を設立するため、「記録する会」と政治経済研究所は民間募金を呼びかけ、4000名を超える方々のご協力をいただきました。そして2002年3月9日、当センターが開館し、「記録する会」発起人のひとりである作家の早乙女勝元が初代館長に就任しました。

その後、再度募金をいただき、2007年に増築を実現しました。2019年、新館長に歴史学者の吉田裕が就任、早乙女は名誉館長になりました。2020年には、三たび多くの方に募金のご協力をいただいてリニューアルし、2022年3月には開館20周年を迎えました。

当センターの目的は、東京大空襲をはじめとする空襲や戦争による民間人の被害を明らかにし、伝えていくことにあります。それを通じて、二度と戦争の惨禍を繰り返さず、平和な世界を築くことに貢献したいと願っています。

維持会費・維持募金のお願い

民立民営の当センターは、多くのみなさまからの会費・募金によって維持・運営され、常設展・特別展、資料の整理・保存、研究活動、出版・編集、各種イベントなどの事業を行っております。

維持会員のみなさまには年2回発行の機関紙をお届けするほか、入館料も無料となります。

維持会費・維持募金へのご協力をお願いいたします。

☆ 郵便振替口座：00170 - 6 - 123225

☆ 個人：1口 2,000円 / 団体：1口 10,000円

一 館内紹介

〈2階 展示室〉

東京の空襲で被災した人びとの体験や想いに焦点を当てた展示空間です。4つのコーナーに分けて、空襲前～空襲～空襲後までを、おおむね時系列で展示しています。

体験記やいくつかの資料にQRコードが付いています。携帯端末などで読み込むと、関連する証言や動画を見たり、聞いたりすることができます。

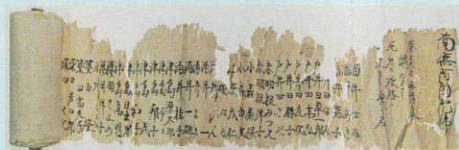
3 証言映像の部屋

空襲を体験された方のお話を記録した証言映像などを見ることができます。

見学のご感想をお書きいただける感想ノートもあります。

4 空襲後のあゆみ

記録運動、当センターの設立経緯など、戦後も続く空襲の被害や問題を展示しています。



1 戦時下の日常

関東大震災から復興した東京の街は、次第に戦時体制に組み込まれていきました。当時のくらしや学校のような、防空に関するモノの展示のほか、灯火管制下の部屋を再現しました。



2 空襲の実相

空襲に使用された焼夷弾の実物と模型があり、重さも実感できます。中央には、『東京大空襲・戦災誌』から選んだ体験記、すみだ郷土文化資料館の体験画、夜が明けたあとの惨状の写真や被災品を展示し、それぞれの3月10日の空襲体験を描きだしています。



〈1階 映像・講話室〉

映像の上映やイベントの会場としても使います。また、団体見学で希望があれば、空襲を体験された方のお話を聞くことができる場所です。

空襲の全体像が分かるように、大きな都心部の被災地図や現代までの空襲の年表が展示されています。

入口すぐの受付ロビーの本棚には、空襲に関する書籍や絵本が置かれ、自由に調べ物をしたり、本を読んだりすることができます。

